台湾景気状況 –2026年10月–

住友商事グローバルリサーチ株式会社　経済部　2026年10月30日

Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

本資料は、住友商事グローバルリサーチ株式会社(以下、「当社」)が信頼できると判断した情報に基づいて作成しており、作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、当社及び住友商事グループは、その情報の正確性、完全性、信頼性、安全性等において、いかなる保証もいたしません。本資料は、情報提供を目的として作成されたものであり、投資その他何らかの行動を勧誘するものではありません。また、本資料は筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び住友商事グループの統一された見解ではありません。本資料の全部または一部を著作権法で認められる範囲を超えて無断で利用することはご遠慮ください。レポートに掲載された内容は予告なしに変更することがあります。

Contents

01 **台湾景気の総括** 02
マクロダッシュボード

02 **注目テーマ** 03
AI・半導体サプライチェーン

03 **実体経済** 06
GDP／PMI／鉱工業生産／消費／輸出／住宅市場／対外部門

04 **金融市場** 12
市場動向／信用動向／健全性／直接投資動向

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

台湾マクロ経済ダッシュボード（2026年10月時点）

今月の総括

- AI関連を軸に輸出・生産が伸び、景気は強い拡大局面を維持
- 非製造業の活動・受注・雇用が改善し、景気の裾野は拡大
- 先行受注の減速やコスト上昇が、成長の持続性を制約

総合判断（景気モメンタム）

改善 ↑

AI主導の拡大基調が続き、非製造業にも改善が広がる一方、先行需要の減速やコスト上昇には注意が必要

主要マクロ経済指標（景気モメンタム）

注：景気基調＝4四半期比較、足元変化＝前回値比較、足元動向＝短期トレンド比較、中期動向＝半年トレンド比較

主要指標：↑ 改善（トレンド上向き） → 横ばい ↓ 悪化（トレンド下向き）
注：矢印は各指標のモメンタム評価

GDP成長率（前年比）	製造業PMI	小売売上高（前年比）	鉱工業生産（前年比）	輸出（前年比）	住宅市場・売買件数（前年比）	CPI（前年比）	失業率
12.9	56.7	6.5	23.5	60.9	-2.8	2.7	3.3
2026/6	2026/9	2026/8	2026/8	2026/9	2026/8	2026/9	2026/8
景気基調 ↑	足元変化 ↑	足元動向 ↑	足元動向 ↑	中期動向 ↓	足元動向 ↑	足元変化 ↑	足元変化 →

景気ヒートマップ（分野別の景況判断）

ヒートマップ：↑ 改善 → 横ばい ↓ 悪化

消費	AI・半導体	生産（鉱工業）	不動産（住宅市場）	外需（貿易）	金融・為替	雇用
↑	↑	↑	↑	↑	↑	→
小売は増加し、サービス活動の改善が内需を補完	需要は高水準ながら、受注の増勢はやや鈍化	電子関連を中心に増勢を維持、在庫は積み上がり	信用規制は一部緩和も、住宅取引の低迷が継続	財輸出とサービス輸出がともに拡大方向	市場反発が支えとなる一方、金融条件は引締まり方向	労働市場は安定し、非製造業の雇用拡大も継続

注：矢印・色は各指標の評価基準に基づく判断

景気先行きの注目ポイント

- 製造業受注と顧客在庫の方向性
- 非製造業の改善と小売見通しの持続
- 投入価格上昇と価格転嫁の進展
- 金融条件と住宅取引の変化
- 世界AI投資と資金調達環境の推移

（出所：台湾行政院主計総処、台湾経済部、台湾財政部、Bloombergより住友商事グローバルリサーチ（SCGR）作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

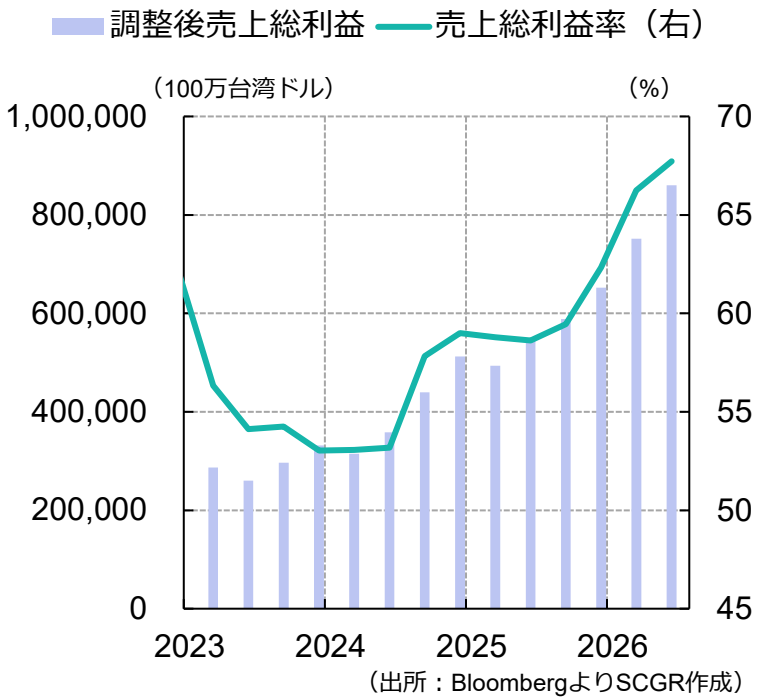
注目テーマ

AI・半導体サプライチェーン①

- AI需要は半導体からサーバー、データセンターへ連鎖
- TSMCと電子機器企業の業績拡大が需要波及を示す
- AI需要は情報通信機器から設備・素材にも波及

TSMC業績

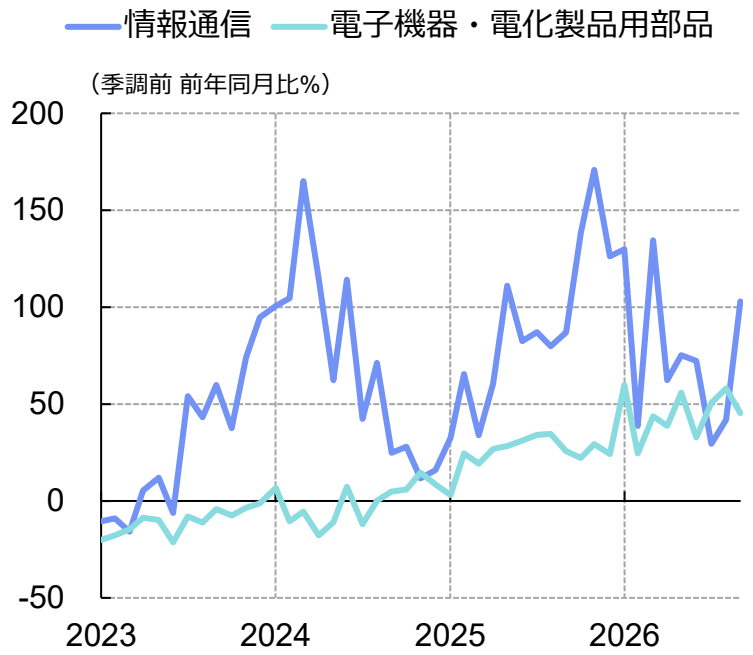
- 売上総利益と利益率は上昇基調
- 2025年以降、収益力が一段と向上
- 先端半導体がAI供給網の中核を担う



（出所：BloombergよりSCGR作成）

情報通信・電子機器輸出（前年比）

- 情報通信輸出は高い伸びが継続
- 電子部品も増加基調を維持
- 外需の効果が複数工程に及ぶ



（出所：財務省（大蔵省）、BloombergよりSCGR作成）

AIサプライチェーンの構造

半導体設計・製造
AIチップ、
先端半導体

TSMC
先端半導体
（2nm・3nm）

電子部品・モジュール
AI向け高性能パッケージ、基板、
メモリ、電源モジュール等

情報通信機器（AIサーバー等）
サーバー、ストレージ、
ネットワーク機器等

Quanta
Foxconn
Wistron

データセンター・クラウド
クラウドサービス、
データセンター運営等

インフラ・設備・素材
電力設備、冷却設備、配電・変圧器、
銅・アルミ等の素材

AI需要が輸出・設備投資へ波及

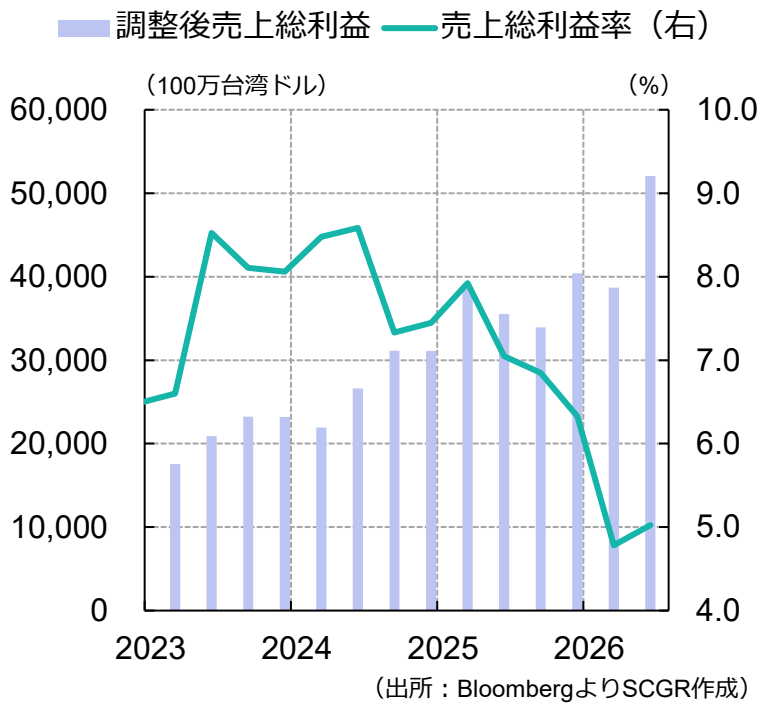
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

AI・半導体サプライチェーン②

- 主要3社の利益額の拡大は続く一方、利益率には差が生じている
- Foxconnは利益率が安定する一方、Quanta・Wistronは変動が大きい
- AI需要の恩恵は広がるが、収益性への波及にはばらつき

広達電脳（Quanta）業績

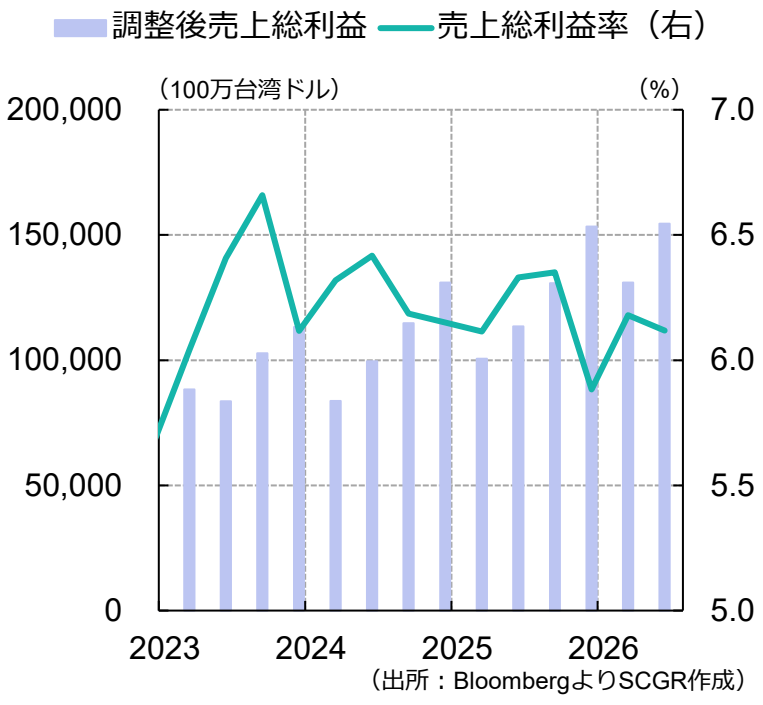
- 利益額は足元で一段と拡大
- 利益率は大幅低下後に小幅反発
- 利益拡大に対し利益率は低水準



（出所：BloombergよりSCGR作成）

鴻海精密工業（Foxconn）業績

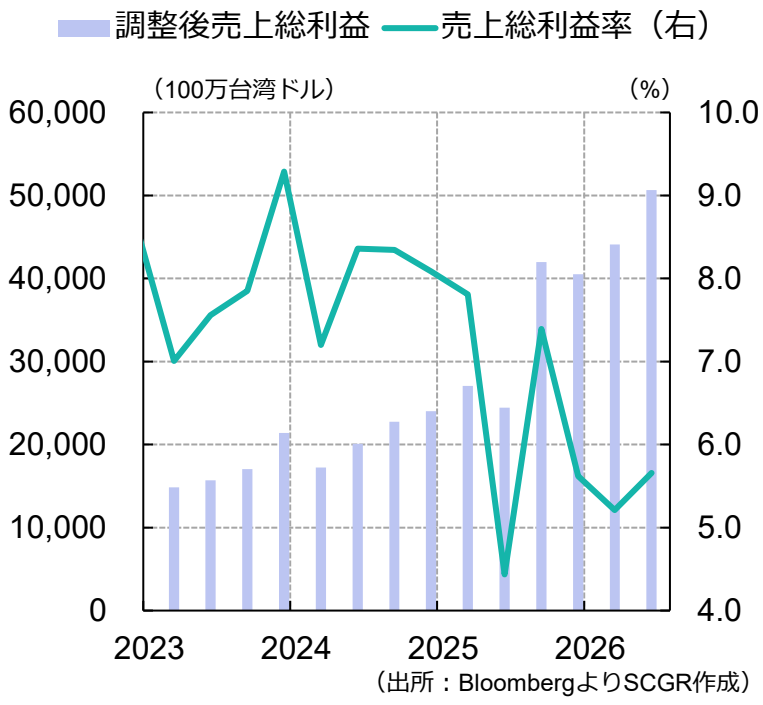
- 利益額は高水準で増加基調
- 利益率は6%前後で比較的安定
- 規模拡大の中でも採算は安定



（出所：BloombergよりSCGR作成）

緯創資通（Wistron）業績

- 利益額は2025年以降急拡大
- 利益率は急低下後、5%台へ回復
- 利益拡大に対し利益率の振れは大きい



（出所：BloombergよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

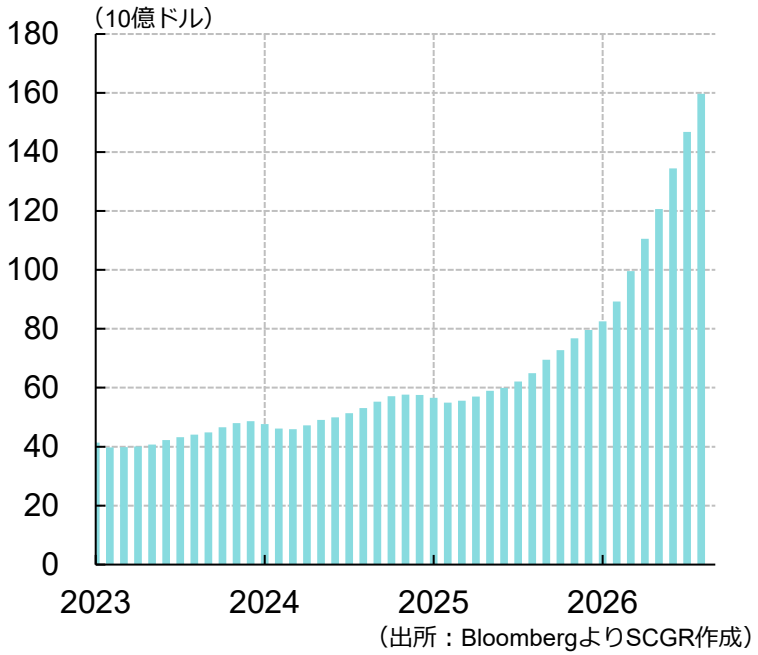
AI・半導体サプライチェーン③

- 世界半導体売上高と関連市場指標は上昇基調
- 2026年は半導体売上高が拡大し、SOX・ISMも上昇
- 半導体需要は堅調も、株価指数の変動は大きい

世界半導体売上高（WSTS）

- 世界半導体売上高は2026年に急拡大
- 長期的な増加基調が一段と強まる
- 世界半導体需要の拡大が鮮明に

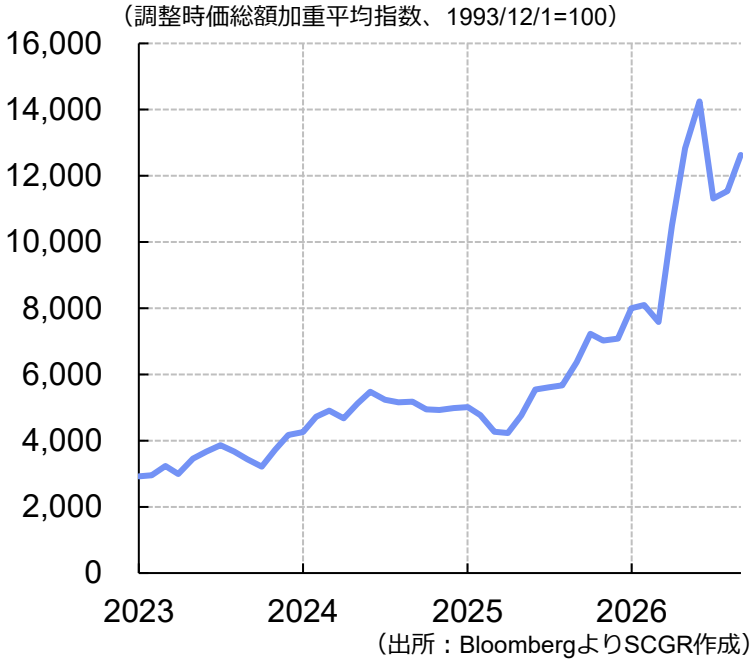
※WSTSは3カ月移動平均ベースの世界半導体売上高



（出所：BloombergよりSCGR作成）

米半導体株指数（SOX）

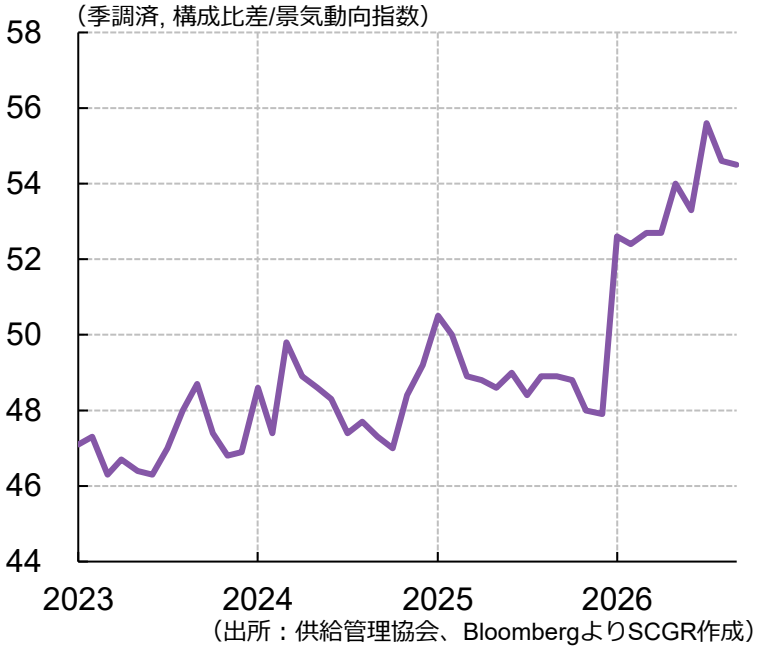
- 指数は急上昇後も高水準を維持
- 上昇過程では大幅な変動もみられる
- 市場の期待は強いが値動きは大きい



（出所：BloombergよりSCGR作成）

米ISM製造業景況指数

- 指数は2026年に50を上回る
- 製造業の景況感は拡張圏へ改善
- 米製造業の改善が半導体需要を下支え



（出所：供給管理協会、BloombergよりSCGR作成）

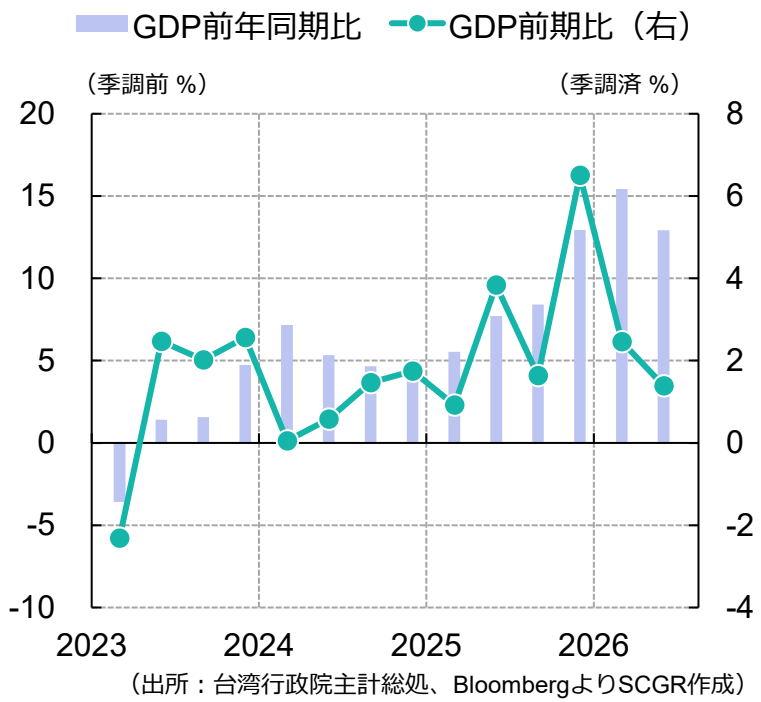
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

台湾の経済情勢

- 台湾景気は高成長を維持し、製造業の景況感も改善
- 輸出は伸びを一段と高め、外需主導の構図が鮮明
- 景気の裾野は改善する一方、成長の牽引役は外需に集中

実質GDP成長率

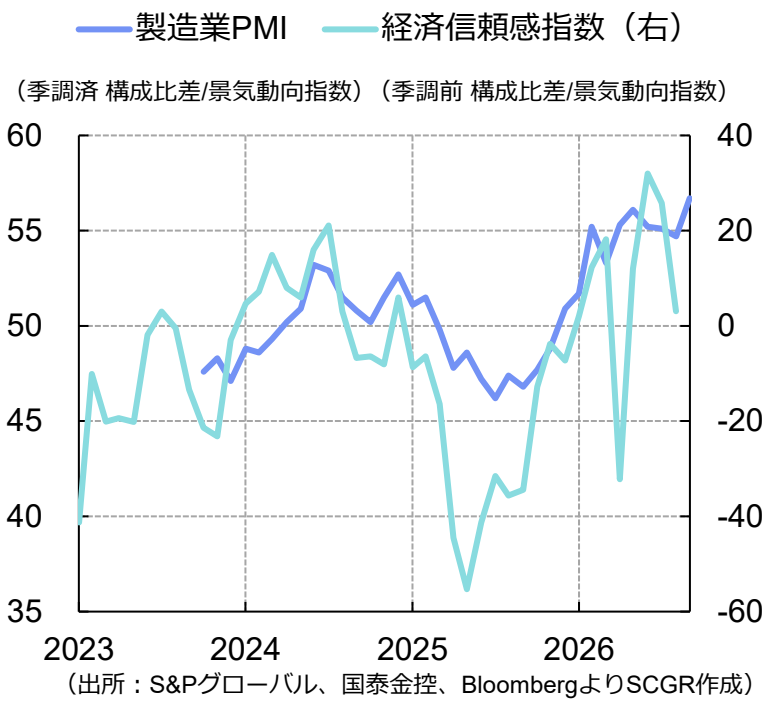
- 実質GDPは前年比で高成長を維持
- 成長率は高水準も勢いはやや減速



（出所：台湾行政院主計総処、BloombergよりSCGR作成）

製造業PMI・経済信頼感

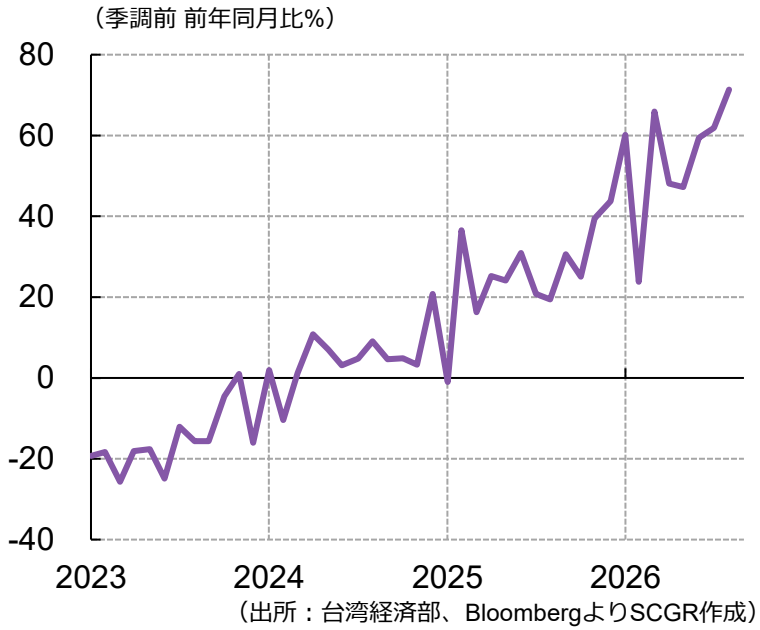
- 製造業PMIは拡張圏で上昇
- 経済信頼感は改善後にやや低下



（出所：S&Pグローバル、国泰金控、BloombergよりSCGR作成）

輸出（前年比）

- 輸出は前年比プラス幅を拡大
- 2025年以降に増勢が加速
- 外需が成長の主な牽引役



（出所：台湾経済部、BloombergよりSCGR作成）

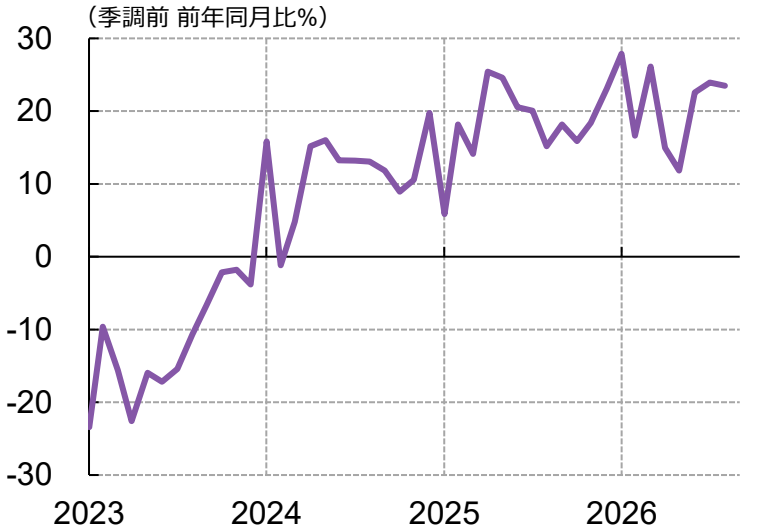
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

鉱工業生産

- 鉱工業生産は電子・ハイテクを軸に高い伸びを維持
- 電子関連が伸長する一方、素材・設備は回復に差
- 生産拡大は続くが、牽引力はハイテク分野に集中

鉱工業生産

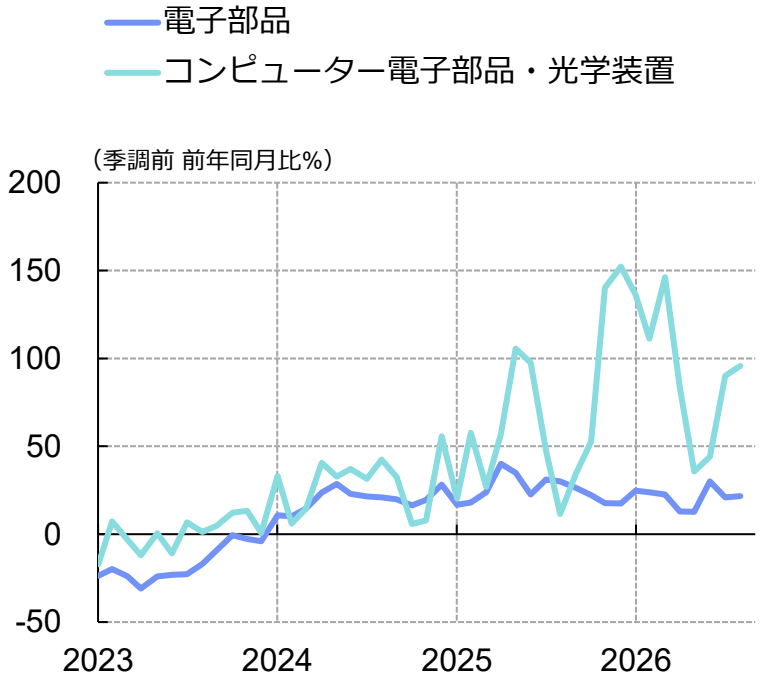
- 鉱工業生産は前年比二桁増が継続
- 2024年以降、増産基調が定着
- 足元も電子関連を中心に高い伸び



（出所：台湾経済部、BloombergよりSCGR作成）

電子・ハイテク産業

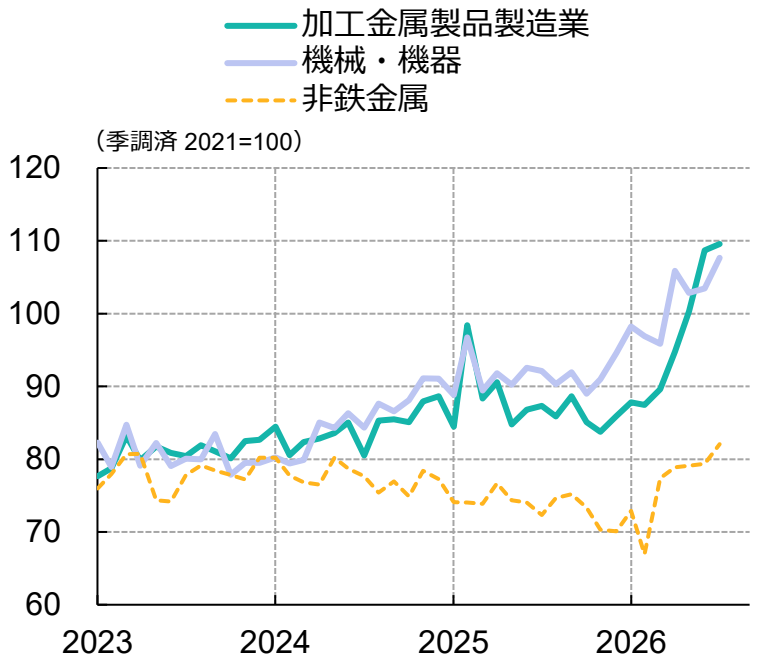
- 電子部品は増産基調を維持
- 電子・光学関連は高い伸びが継続
- 電子関連が生産拡大を牽引



（出所：台湾経済部、BloombergよりSCGR作成）

素材・設備関連

- 金属・機械は足元で生産水準が上昇
- 非鉄金属は相対的に低水準
- 素材・設備関連の回復にはばらつき



（出所：台湾経済部、BloombergよりSCGR作成）

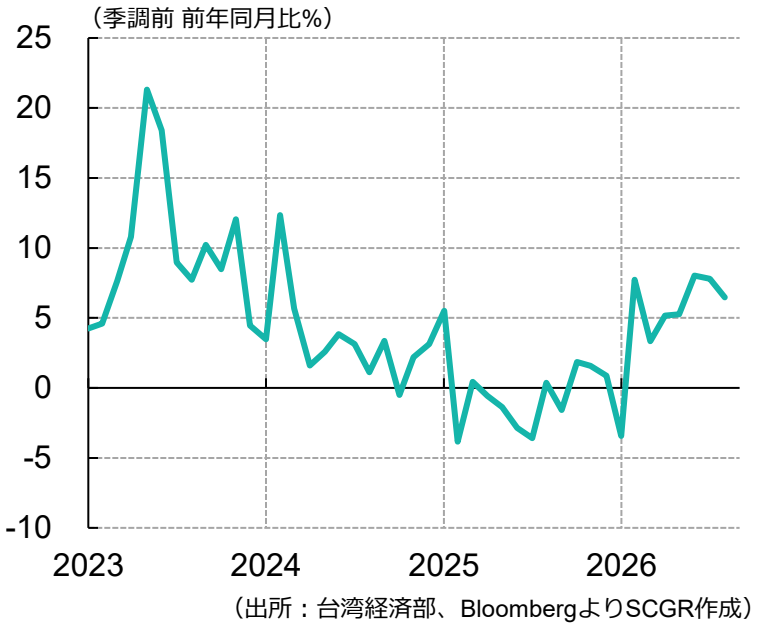
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

消費・雇用

- 小売売上は持ち直し、雇用環境も安定を維持
- 物価上昇率は低下後、再び上昇
- 家計需要は景気を下支えするも、加速には至らず

小売売上高

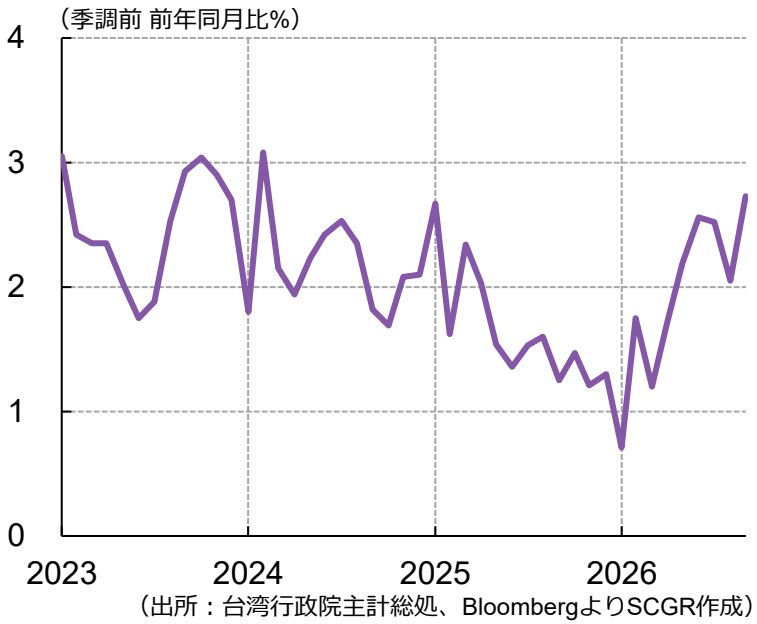
- 小売売上は減少局面から増加へ転換
- 足元は前年比プラスが定着



（出所：台湾経済部、BloombergよりSCGR作成）

消費者物価

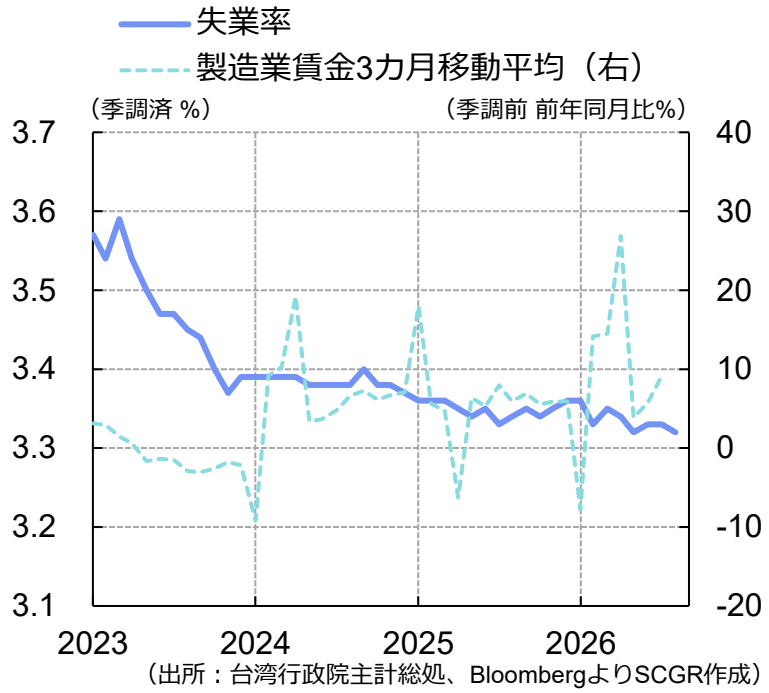
- 消費者物価は2%台後半へ上昇
- 年初の低下から上昇に転じる
- 物価上昇が家計の負担となる可能性



（出所：台湾行政院主計総処、BloombergよりSCGR作成）

雇用

- 失業率は緩やかな低下基調
- 製造業賃金は変動を伴い増加傾向
- 雇用・所得環境が家計需要を下支え



（出所：台湾行政院主計総処、BloombergよりSCGR作成）

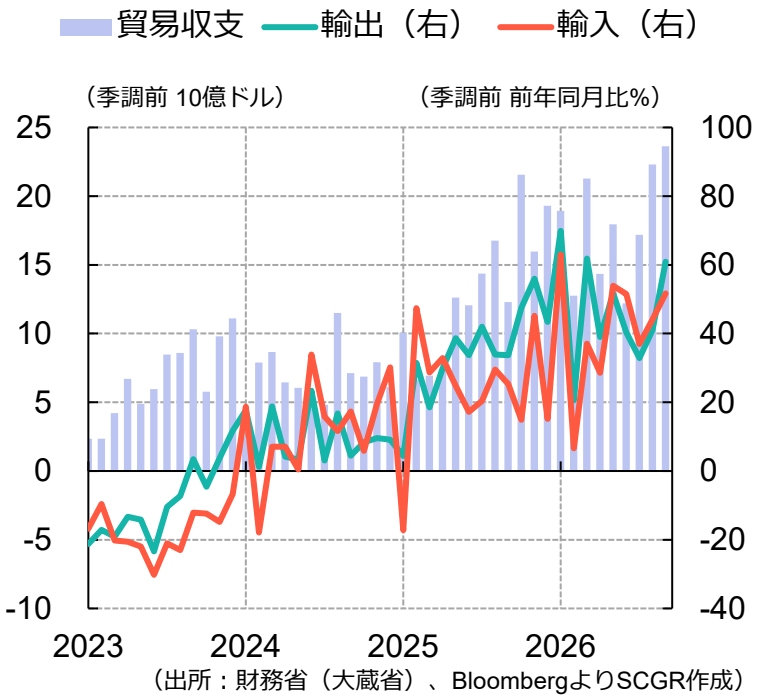
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

輸出動向

- 輸出はICを中心に高い伸びを維持し、貿易黒字も拡大
- 米国向け輸出が高い伸びを示し、地域差が鮮明
- 外需は堅調も、輸出の伸びには品目・地域差

貿易収支

- 貿易黒字は拡大基調
- 輸出の好調が貿易収支を押し上げ
- 輸出入はともに高い伸びが継続



（出所：財務省（大蔵省）、BloombergよりSCGR作成）

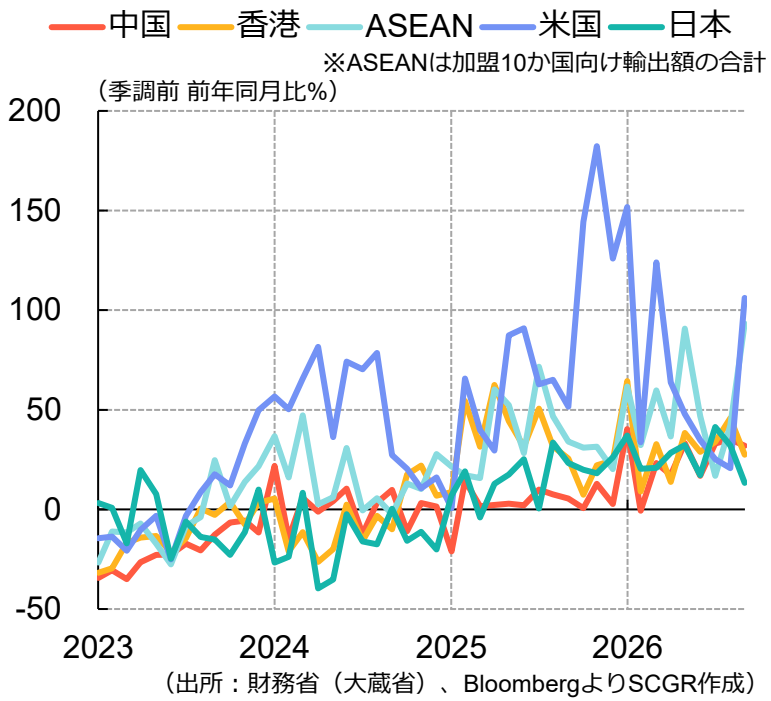
集積回路（IC）輸出

- IC輸出は前年比大幅増が継続
- 2025年以降、増勢が一段と加速

（出所：財務省（大蔵省）、BloombergよりSCGR作成）

主要輸出先別輸出

- 米国向け輸出の伸びが突出
- 輸出の伸びには地域差が残る



（出所：財務省（大蔵省）、BloombergよりSCGR作成）

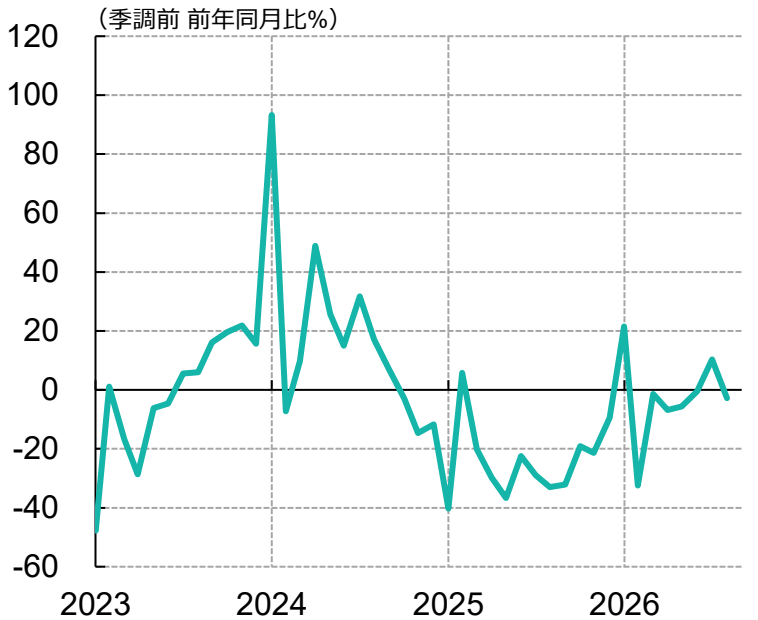
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

住宅市場

- 住宅価格は高値圏を保つ一方、売買件数は前年比減少が目立つ
- 建築許可件数もピーク時から低下し、供給面の勢いは弱い
- 価格の底堅さに比べ取引と建設は鈍く、住宅市場の低迷は内需の重石

住宅売買件数

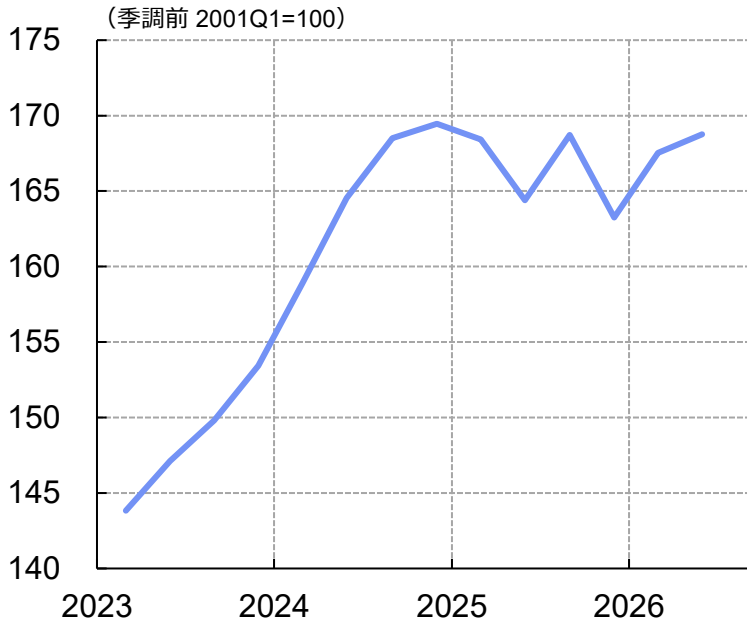
- 売買件数は前年比減少が中心
- 一時的な増加後も回復は定着せず
- 住宅取引の本格回復には至らず



（出所：内務省 - 台湾、BloombergよりSCGR作成）

住宅価格指数（台湾）

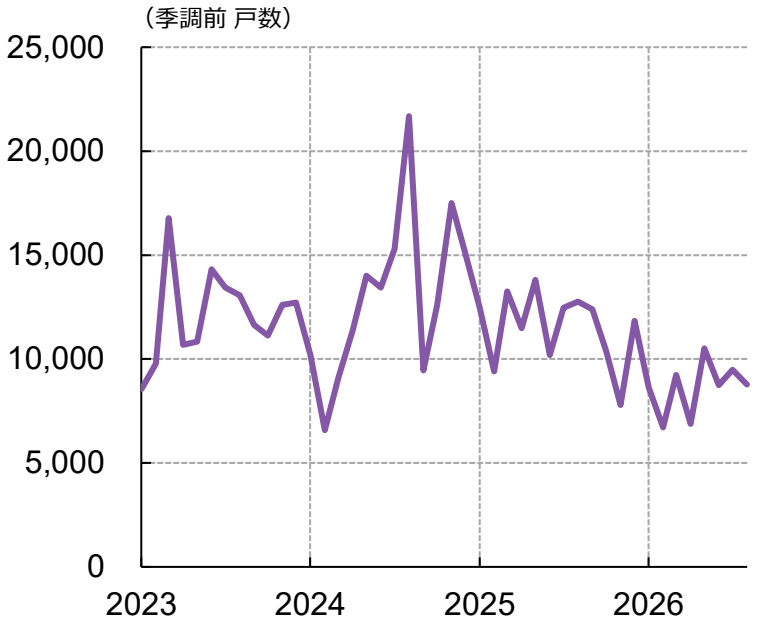
- 住宅価格は調整後に持ち直し
- 足元は再び高値圏で推移
- 取引低迷との乖離が続く



（出所：信義房屋、BloombergよりSCGR作成）

住宅建築許可件数

- 建築許可件数は低水準で推移
- 月ごとの変動は引き続き大きい
- 住宅建設の先行きは弱含み



（出所：台湾内政部国土管理署、CEICよりSCGR作成）

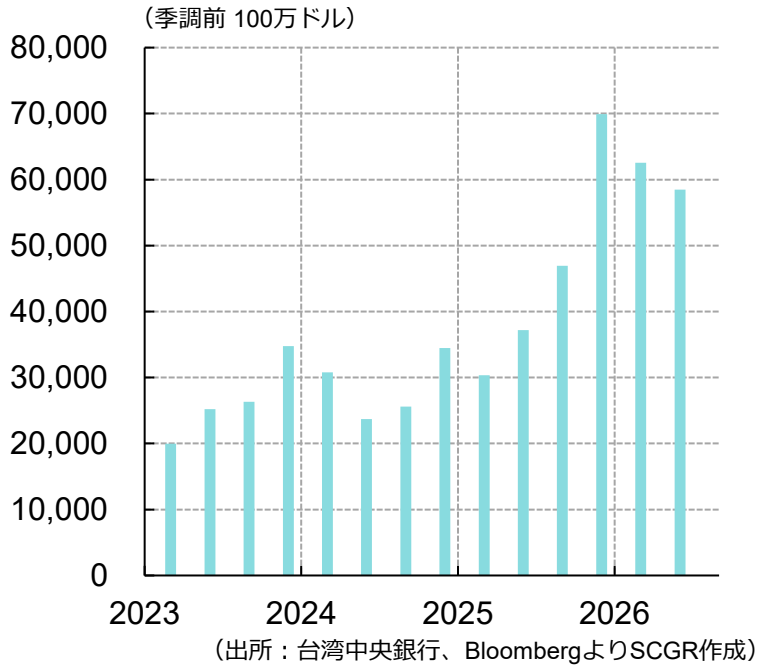
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

対外部門・資本フロー

- 経常黒字と外貨準備は高水準を保ち、対外面の安定性を支える
- 外国資金は大幅な流入もみられる一方、月ごとの振れが大きい
- 対外収支は堅調も、外国資金の流出入は変動が大きい

経常収支（四半期）

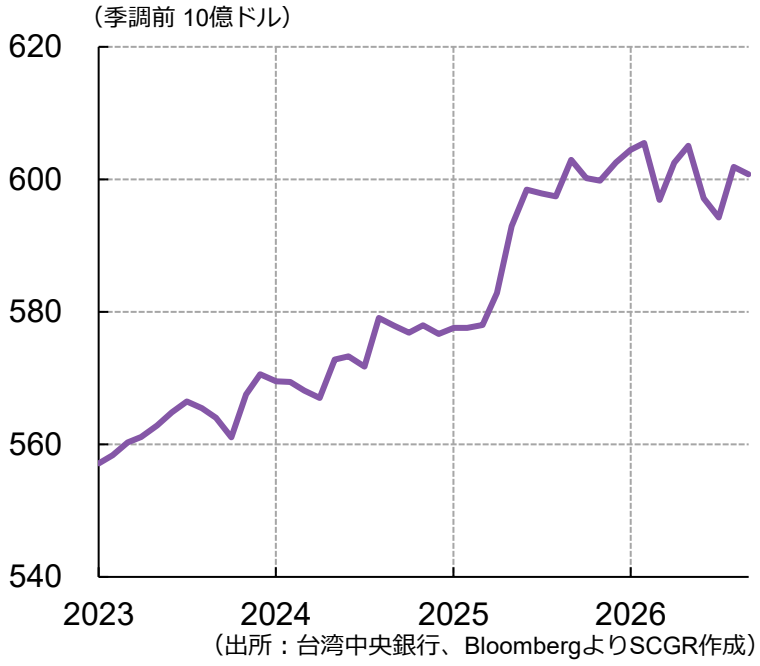
- 対外収支は引き続き良好
- 経常黒字は高水準を維持もピークから縮小



（出所：台湾中央銀行、BloombergよりSCGR作成）

外貨準備高

- 外貨準備は高水準で推移
- 増加基調の中でも変動は限定的
- 対外ショックへの備えを維持

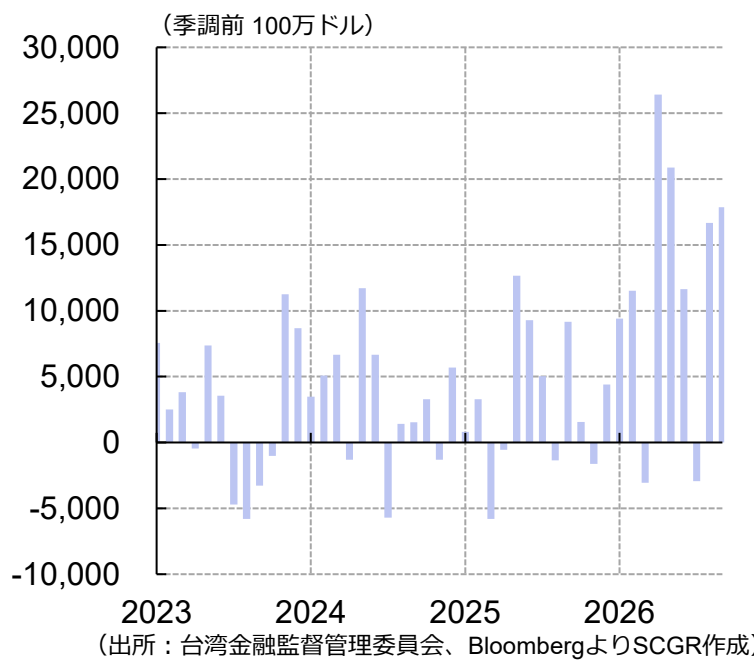


（出所：台湾中央銀行、BloombergよりSCGR作成）

外国資金純流入額

- 外国資金は大幅な流入もみられる
- 月によって純流出となることも
- 資金フローの変動幅は大きい

注：外国人投資家による月次の純資金流入額



（出所：台湾金融監督管理委員会、BloombergよりSCGR作成）

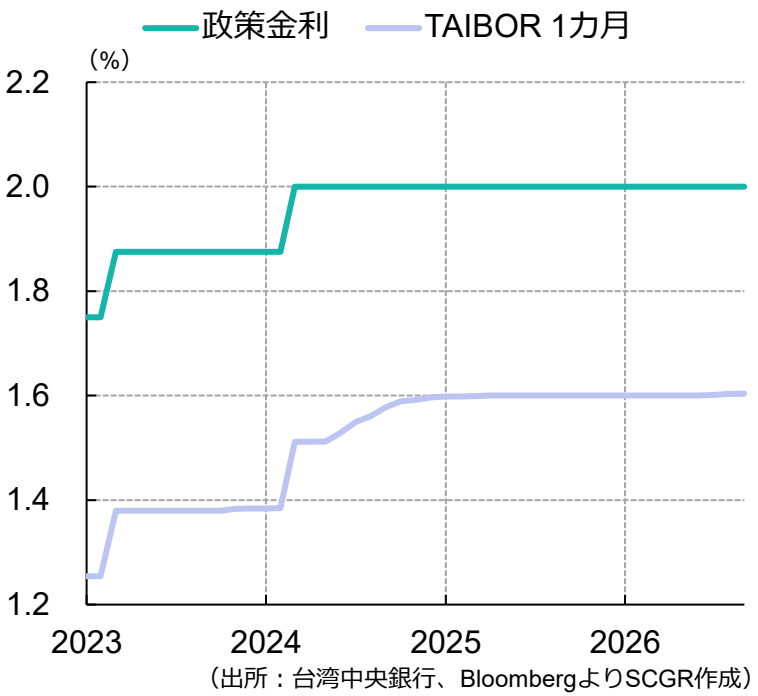
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

金融・市場動向

- 政策金利は据え置かれる一方、短期金利は高止まりしている
- 株価は上昇基調を維持し、TSMCの構成比も高水準
- 株価は上昇基調も、特定銘柄への集中がリスク要因

金利

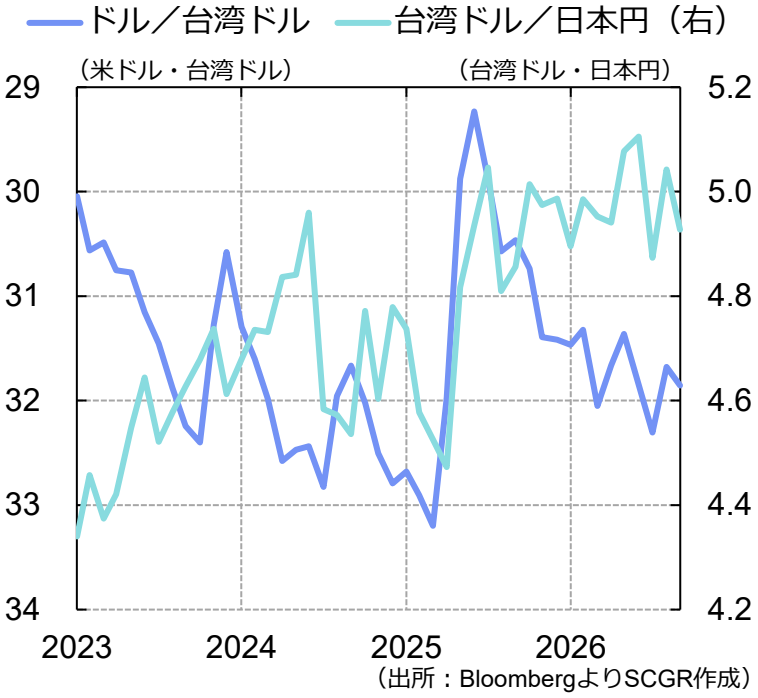
- 政策金利は2%で据え置き
- 短期金利は1.6%近傍で推移
- 政策・短期金利ともに横ばい圏



（出所：台湾中央銀行、BloombergよりSCGR作成）

為替

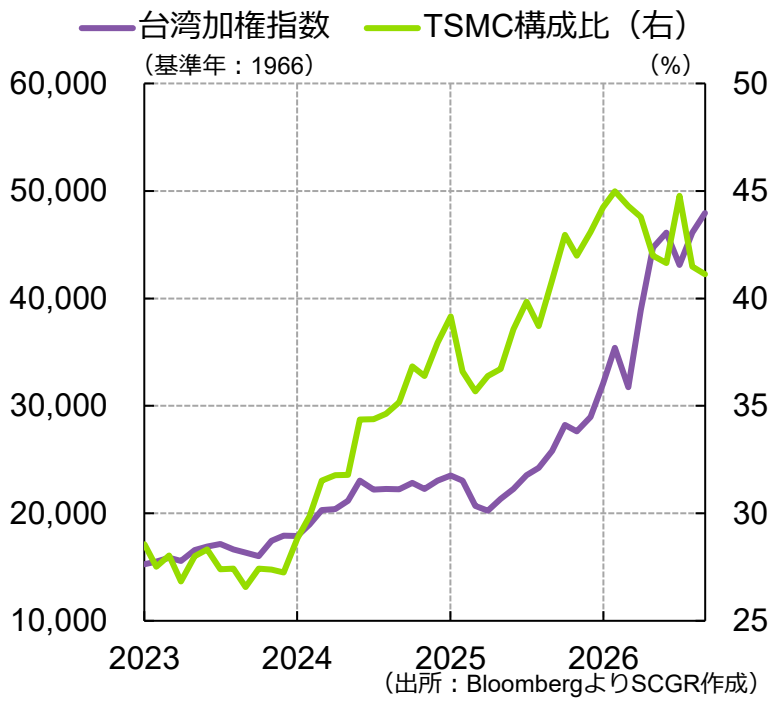
- 台湾ドル相場は変動を伴い推移
- 対ドルと対円で異なる動きがみられる
- 為替動向には引き続き注意が必要



（出所：BloombergよりSCGR作成）

TAIEX（台湾加権指数）とTSMC構成比

- 株価指数は大幅に上昇
- TSMC構成比は4割超へ拡大
- 指数の特定銘柄への依存度が上昇



（出所：BloombergよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

金融・信用動向

- 銀行貸出の伸びが加速し、M2の伸びを明確に上回る
- 消費者信用の伸びは低位にとどまり、家計向けの拡大は限定的
- 銀行貸出の伸びが加速する一方、消費者信用は低調

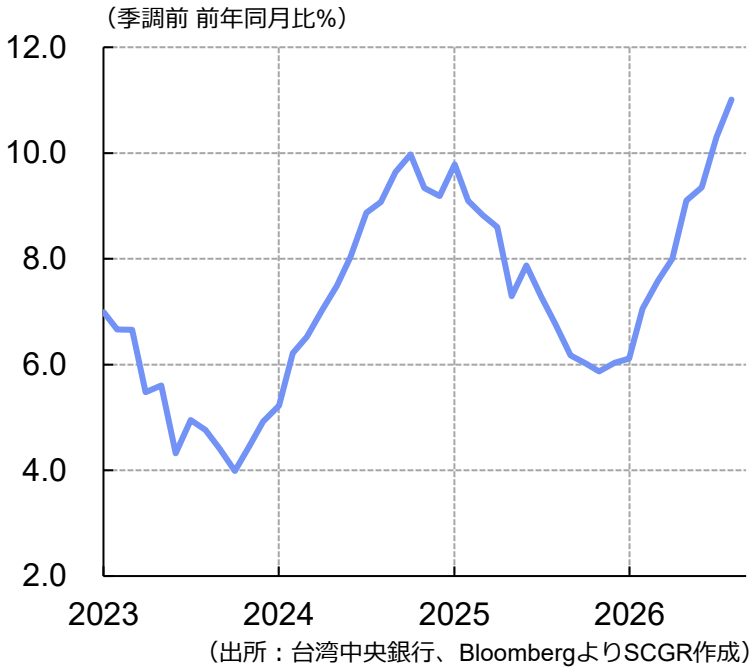
マネーサプライ（M2）

- M2の伸びは一時加速後に鈍化
- 足元は2023年の水準に近づく
- 銀行貸出の伸びがM2の伸びを上回る

（出所：台湾中央銀行、BloombergよりSCGR作成）

銀行貸出（前年比）

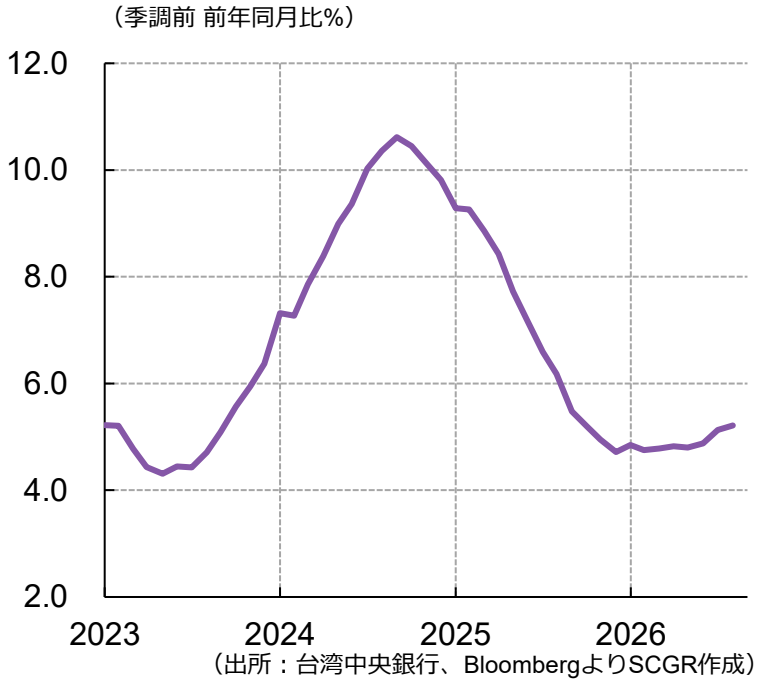
- 銀行貸出は2026年に再加速
- 伸び率は期間中の最高水準へ上昇
- 信用供給の拡大が鮮明に



（出所：台湾中央銀行、BloombergよりSCGR作成）

消費者信用残高

- 消費者信用は5%前後で横ばい
- 銀行貸出との伸びの差が拡大
- 家計向け信用の伸びは限定的



（出所：台湾中央銀行、BloombergよりSCGR作成）

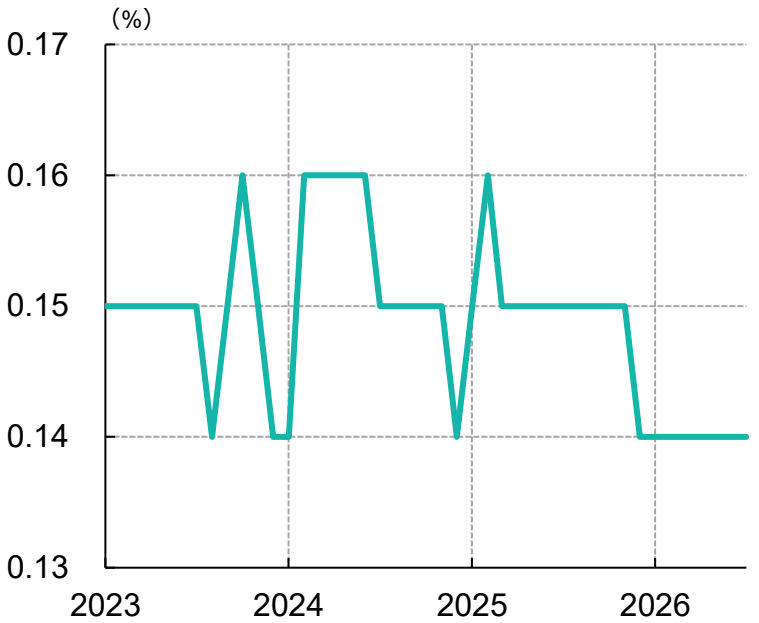
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

金融・健全性

- 不渡りと延滞率は低位で推移し、金融機関の健全性は維持
- 貸倒引当金カバー率は上昇し、不良債権への備えが拡充
- 信用拡大が続く中でも、金融機関の損失吸収力は高水準

不渡り手形比率（件数）

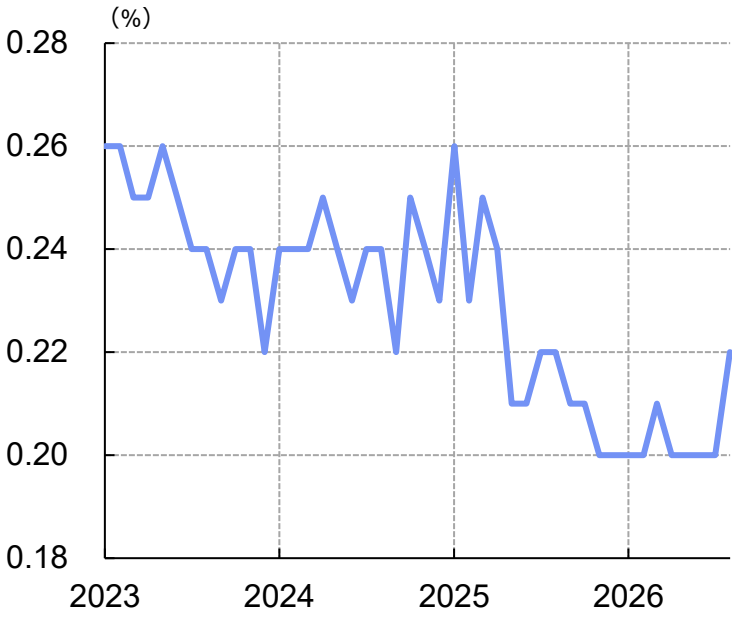
- 不渡り手形比率は低位で横ばい
- 足元は過去の低水準で推移
- 企業決済面の信用悪化は限定的



（出所：台湾金融監督管理委員会、CEICよりSCGR作成）

中小企業向け貸出延滞率

- 延滞率は低下後、足元で小幅上昇
- 過去と比べ低水準を維持
- 中小企業向け信用の劣化は限定的

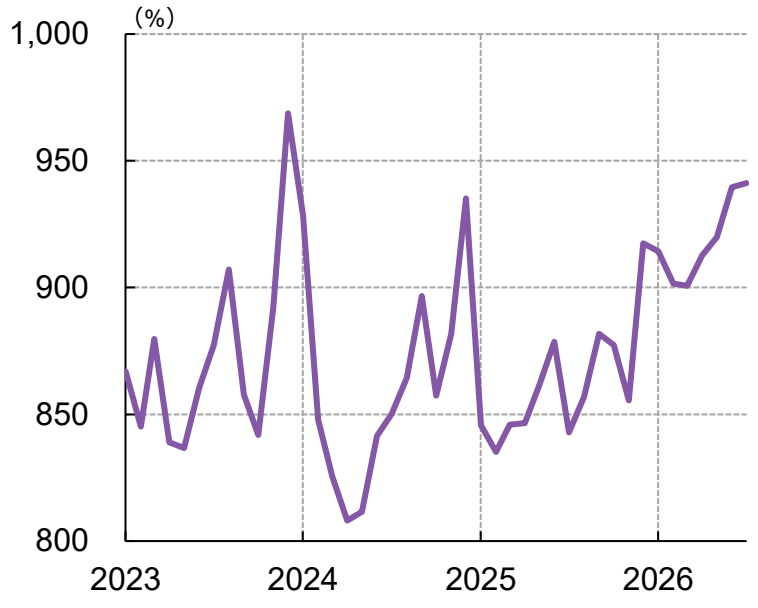


（出所：台湾金融監督管理委員会銀行局、CEICよりSCGR作成）

不良債権に対する貸倒引当金カバー率

- カバー率は2025年以降上昇
- 足元は900%台前半まで改善
- 不良債権への損失吸収力が向上

注：貸倒引当金カバー率＝貸倒引当金÷不良債権×100



（出所：台湾金融監督管理委員会銀行局、CEICよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

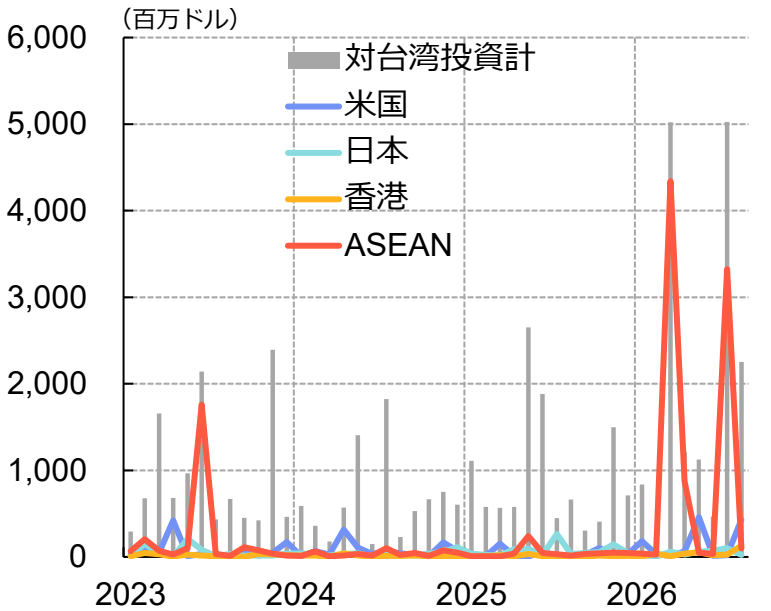
直接投資動向

- 対内・対外直接投資は大型案件により月次変動が大きい
- 対内投資はASEAN、対外投資は米国の大型案件が目立つ
- 地域別の動向にはばらつきがあり、基調判断は難しい

対台湾直接投資（認可額）

- 対内投資は月ごとの振れが大きい
- 2026年はASEANからの投資が突出
- 投資額は一部の月に集中する傾向

※ASEAN：シンガポール、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア

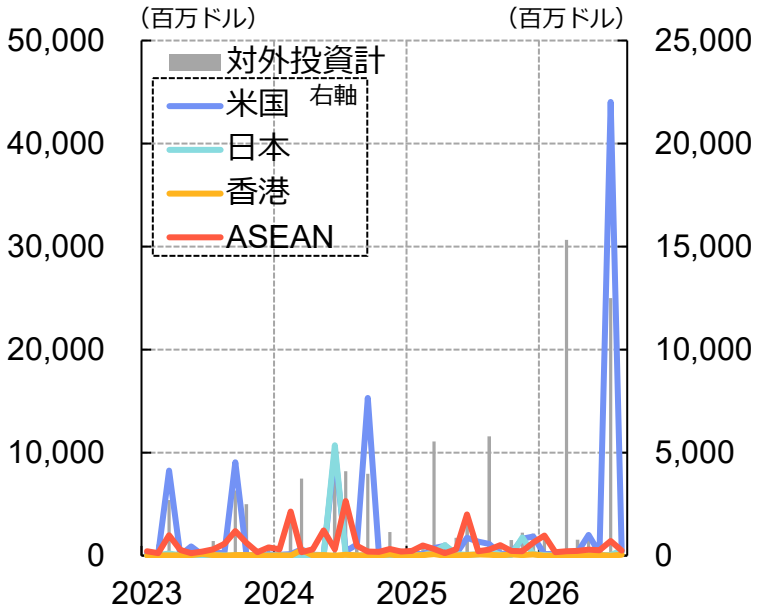


（出所：台湾経済部投資審議司、CEICよりSCGR作成）

台湾からの対外直接投資（中国本土除く、認可額）

- 対外投資は2026年に大幅増加
- 米国向けの急増が全体を押し上げ
- 投資額は米国向けに大きく偏る

※ASEAN：シンガポール、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム

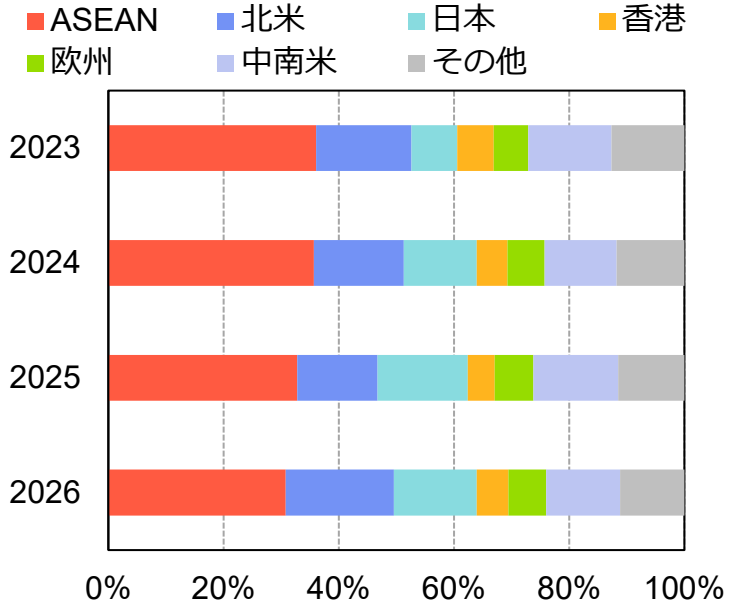


（出所：台湾経済部投資審議司、CEICよりSCGR作成）

地域別対外投資件数構成（中国本土除く）

- ASEANの構成比は緩やかに低下
- 日本や北米などの構成比が変動
- 投資先の地域構成に変化がみられる

※ASEAN：シンガポール、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム
※2026年は1～8月実績に基づく構成比



（出所：台湾経済部投資審議司、CEICよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.